

湿地	分布流域	流域面積	湿地の湧水実態			湿地の流量・水位・水質実態			流域内の 改変面積 (改変率)	予測結果(供用後)	
			広域の表層地質図との対比	対象事業実施区域の表層地質図と対比	湧水量(現地観測結果)	湿地水位	水温・主成分分析	水素・酸素同位体分析		地下水流動量の減少影響(タンクモデルによる)	調整池周辺の水位低下(暗渠の式による)
A 湿地	Y-7 流域 (C 調整池)	0.691km ²	第Ⅱ期中部霧ヶ峰火山岩類(KIIB)層中から湧出	Tf(Ⅱ)および An(Ⅱ)の下部境界付近から湧出	【夏季(H28年8月)】 湿地上流の湧水量:307 ℓ/分 湿地内の湧水量 :677 ℓ/分 湿地全体の湧水量:984 ℓ/分 【晩秋季(H28年11月)】 湿地上流の湧水量: 226 ℓ/分 湿地内の湧水量 : 815 ℓ/分 湿地全体の湧水量:1,041 ℓ/分	水位変化は比較的小さく、少雨時の基底水位は安定している (水位変動幅:約 0.06m) →涵養範囲が比較的に広い可能性	(水温) ・ 夏場の水温が低い傾向を示す (主成分) ・ イオン濃度・シリカ濃度ともに高い傾向にある →比較的深部を流動する可能性	CD 湿地の涵養域よりも高い (対象事業実施区域より上流を涵養域の中心とする)	0.010km ² (1.4%)	5%減少 (Y-7 流域全体) 直接的な影響は極めて小さいと考えられる。	C 調整池:上流側約 12m A 湿地は、C 調整池の上流約 1km上流に位置するため、水位低下の影響は及ばないと予測される
C 湿地	Y-9 流域 (A 調整池)	0.245km ²	第Ⅰ期上部霧ヶ峰火山岩類(KIb)層の下部境界付近から湧出	Tf(Ⅱ)の下部境界付近から湧出	【夏季(H28年8月)】 湿地上流の湧水量:107 ℓ/分 湿地内の湧水量 : 39 ℓ/分 湿地全体の湧水量:146 ℓ/分 【晩秋季(H28年11月)】 湿地上流の湧水量:111 ℓ/分 湿地内の湧水量 : 18 ℓ/分 湿地全体の湧水量:129 ℓ/分	少雨時の水位低下傾向が大きい (水位変動幅:約 0.1m) →涵養範囲が狭い可能性	(水温) ・ 湿地の湧水は夏場に高くなる傾向を示す (主成分) ・ 対象事業実施区域内の湧水の中でイオン濃度・シリカ濃度ともに、最も小さい傾向にある	流域内で涵養された湧水として、涵養域検討の基準として検討	0.106km ² (43.2%)	19%減少 (Y-9 流域全体) 供用後に湧水量が減少する可能性あり	A 調整池:上流側約 27m C・D 湿地は、A 調整池から約 500m上流に位置することから、湿地水位低下の影響は及ばないと予測される
D 湿地		0.476km ²		Tf(Ⅱ)および An(Ⅱ)の下部境界付近から湧出	【夏季(H28年8月)】 湿地上流の湧水量:217 ℓ/分 湿地内の湧水量 : 71 ℓ/分 湿地全体の湧水量:288 ℓ/分 【晩秋季(H28年11月)】 湿地上流の湧水量:115 ℓ/分 湿地内の湧水量 :198 ℓ/分 湿地全体の湧水量:313 ℓ/分	少雨時の水位低下傾向が大きい (水位変動幅:約 0.12m) →涵養範囲が狭い可能性	→比較的周辺の浅い地下水が湧出する可能性		0.195km ² (40.9%)		
E 湿地	Y-6 流域 (B 調整池)	0.095km ²	第Ⅱ期中部霧ヶ峰火山岩類(KIIB)層の下部境界付近から湧出	Tf(Ⅰ)の下部境界付近から湧出	【夏季(H28年8月)】 湿地上流の湧水量:20 ℓ/分 湿地内の湧水量 :17 ℓ/分 湿地全体の湧水量:37 ℓ/分 【晩秋季(H28年11月)】 湿地上流の湧水量: 8 ℓ/分 湿地内の湧水量 :108 ℓ/分 湿地全体の湧水量:116 ℓ/分	少雨時の水位低下傾向が大きい (水位変動幅:約 0.1m) →涵養範囲が狭い可能性	(水温) ・ 湿地の湧水は夏場に高くなる傾向にある (主成分) ・ イオン濃度・シリカ濃度ともに、最も小さい傾向にある →比較的周辺の浅い地下水が流出する可能性	C・D 湿地よりも若干高い標高を涵養域の中心とする	0.047km ² (49.5%)	16%減少 (Y-6 流域全体) Y-9 流域(C・D 湿地分布流域)より減少量は少ないものの、供用後に湧水量が減少する可能性あり	A 調整池:最大約 32m C 調整池:最大約 17m E 湿地は、A 調整池から約 200m、C 調整池から約 300m離れているため、湿地水位低下の影響は及ばないと予測される
F 湿地		0.304km ²		Tf(Ⅰ)の下部境界付近から湧出	【夏季(H28年8月)】 湿地上流の湧水量:142 ℓ/分 湿地内の湧水量 :153 ℓ/分 湿地全体の湧水量:295 ℓ/分 【晩秋季(H28年11月)】 湿地上流の湧水量: 79 ℓ/分 湿地内の湧水量 :231 ℓ/分 湿地全体の湧水量:310 ℓ/分	対象事業実施区域内の湿地の中で水位変化が最も小さく、少雨時の基底推移は安定している (水位変動幅:約 0.04m) →涵養範囲が比較的に広い可能性	(水温) ・ 湿地湧水の中で夏場の水温が低く、水温変化も全体的に小さい傾向 (主成分) ・ イオン濃度・シリカ濃度ともに比較的高い傾向にある →比較的深部を流動している可能性		C・D 湿地と同等か若干高い標高を涵養域の中心とする (流域外から地下水流動の可能性)		